



**ANNUAL
MEETINGS**
2022 | WASHINGTON DC
INTERNATIONAL MONETARY FUND
WORLD BANK GROUP

October 14, 2022 (J)

Address by **KRISTALINA GEORGIEVA**,
Chair of the Executive Board and
Managing Director of the International Monetary Fund,
to the Board of Governors of the Fund
at the Joint Annual Discussions

講演用原稿

ショックを受けやすい世の中における IMF の役割

クリスタリナ・ゲオルギエバ IMF 専務理事

2022 年 IMF・世界銀行年次総会本会議 2022 年 10 月 14 日

アブドゥッラーさん、お話しいただきどうもありがとうございます。エジプトが来月、国連気候変動枠組み条約第 27 回締約国会議（COP27）を開催することを楽しみにしています。3 年ぶりにたくさんの同僚や友人と直接お会いできてとても嬉しく思います。

IMF 創設の父の一人であるジョン・メイナード・ケインズがこう記しました。最高の経済学者は「将来のために過去を鑑みて現在を研究する」。

ケインズ氏の考えを私たちの今日の状況に当てはめてみることは理に適っています。まずは最近の過去を振り返ってみましょう。

過去

最後に対面式で集まって以降、世界は異例の激動期を経験しました。新型コロナウイルスのパンデミック、戦争、そして生活費危機を引き起こしている記録的な高インフレです。

政策当局者はパンデミック中、家計や企業を大打撃から守るために異例な対策を取りました。これは極めて重要でしたが、その過程で、パンデミックの最初の 18 か月間に追加支出が世界 GDP の 10% に達しました。

危機に次ぐ危機を受けて多くの国は、バッファーが大幅に減り外圧が高まりました。IMF は各国を助けるために対策を強化しました。前例のない対応でした。新型コロナの危機が勃発して以降、過去最速のスピードで **93 か国**を対象に **2,600 億ドル**の新規融資を提供しました。ロシアのウクライナ侵攻以来、**16 か国**を対象に **900 億ドル**近くを提供しました。追加 **28 か国**が IMF の支援を受けることに関心を示しています。加えて、昨年には **6,500 億ドル**の特別引出権（SDR）の配分も実施しました。

各国が直近の差し迫った課題に対処する最中も、脆弱性が蓄積していました。

需給の不均衡とパンデミック時の政策支援、ロシアのウクライナ侵攻が、凄まじいインフレ圧力につながりました。ソブリン債務は 2020 年に過去最高を記録し、今年は世界

GDP の **91%**と予測されています。こうした中、緩和的な金融政策により、リスク資産の価格が上がりました。

今、根本的な転換が起きています。比較的安定していた低金利・低インフレの時代から、高金利・高インフレそして先行き不透明感が高まる時代へ移行しています。気候災害がこれまでよりずっと頻繁に起き、これまでより深刻で、かつ地政学的な緊張により世界的な協調がはるかに困難であるこの時期にです。

私たちは**新しい危険地帯**に入りつつあります。より分断化した、より脆弱な、よりショックを受けやすい世界です。この世界では各国が、思惑に反して、一瞬にして軌道から外されてしまう可能性があります。

過去2年半にわたって私たちは、異例な問題を乗り越えてきましたが、これからも異例な問題に立ち向かうこととなります。今後の道のりは、同じくらい厳しいもの、もしくはもっと厳しいものになるでしょう。

現在

現在に目を向けると、IMF の来年の世界経済成長率予測は **2.7%**です。過去12か月で4回下方改定しました。また、成長率は4分の1の確率で **2%**を下回ります。市場は極めて不安定であり、多くの国で景気後退のリスクが高まっています。

当面の最大の課題は、インフレ率を引き下げることです。各中銀が物価の安定を取り戻すことに注力しており、金融政策を急速に引き締めています。これは正しいことですが、痛みを伴います。金融の引き締めが加速するにつれて成長が鈍化し、失業率が高くなります。

適切な財政政策を策定することが鍵となります。優先事項は、食料と燃料価格の上昇の影響を緩和するための的を絞った措置で脆弱な世帯を保護することです。

同時に、財政政策は金融政策に反対するのではなく **連動**しなければなりません。インフレを煽らないために、新たな歳出は、貯蓄や新しい歳入によって相殺されなければなりません。

バッファーを再構築し、債務を削減することが一層重要となります。パンデミックは、財政余地がなぜ重要なのか、そして既存の脆弱性に対処することがいかに大事であるかを鮮明に示しました。

政策当局者は、金融政策と財政政策の適切なバランスを見極める際に、金融部門のストレスにも注意を払わなければなりません。ここでは、ノンバンク金融機関や信用市場で脆弱性が高まっている分野を対象に、特定のツールを用いて、システミックな機関の破綻から経済を守るマクロプルーデンス政策が必要です。

政策当局者は非常に政策余地が限られています。間違える余裕はないのです。間違えれば、現在の問題は、より深刻な問題へと化す可能性があります。低成長の長期化やインフレの定着、さらには波及リスクを伴うソブリン債務危機までも起こりうるのです。

一方、適切に調整された政策パッケージは、次第に、より持続的な成長、より安定した物価、より健全な財政につながるでしょう。それ以上に、各国の強靱性が高まり、ショックに対処する準備体制が改善されるでしょう。

将来

将来を見据える際に、正しい選択をすれば、最悪の結果を避けることができます。

ショックを受けやすい世界で強靱性を構築するためにはまず、**先見的で予防的な考え方**が重要です。強靱性には3つの柱があります。**耐性のある経済、耐性のある人々、そして耐性のある地球。**

第1に、**耐性のある経済**についてお話しします。

リスクが高まる中でも、**ファンダメンタルズを強化**しなければなりません。

まず、信頼性のある中期的な財政枠組みから見てみましょう。

なぜでしょうか。堅実なルールに基づいて財政政策を策定すると、見通しがつくようになり、マクロ経済の安定を促進することに役立つからです。さらに重要なことは、信頼できる枠組みにより投資家との信頼関係を築くことで、政府は重要な支出計画を維持し、厳しい財政緊縮を伴わずに債務を安定させることができます。

一部の国は、すでに深刻な債務問題に直面しています。

60%を超える低所得国と、**25%**を超える新興市場国が債務危機に陥っているか、陥るリスクにさらされています。金利が上がり、ドルが強くなり、資本流出が増加すれば、事態は悪化するばかりです。

効果的な債務再編メカニズムが切実に必要とされています。特に、共通枠組みを拡大しなければなりません。国や民間の債権者を含めたすべての債権者が責任を公正に分担するのです。さもなければ、当事者すべてに害を及ぼす無秩序な債務危機のリスクに直面します。

もちろん、予防は治療よりも望ましいのです。

債務の透明性とガバナンスの向上は、過剰債務を回避することに役立ちます。リスクを早期に特定するシステムも同様です。双方において IMF は、加盟国を支援するための取り組みを積極的に進めています。

このようにして、より**先見的なアプローチ**を採用しています。

パンデミックの間、IMF の予防的融資が **1,410 億ドル**に達し、IMF の融資へ早期にアクセスすることが流動性の維持と円滑な調整にどのように役立つかを明確に示しました。

そして、総会の前夜に私たちは、世界的な食料危機で大打撃を受けた国々へ、IMF の追加融資を提供するための、新たな食料ショックの枠に合意しました。

さらに、昨年を実施した歴史的な規模の SDR 配分は、加盟国全体の準備金を補強することに役立ちました。そして、これらの SDR を必要なところへ振り向ける取り組みは急速に続いています。

このような対策は不可欠ですが、十分ではありません。私たちはもっと多くのことをしなければなりません。ここで次の柱、**耐性のある人々**に話を移します。

パンデミックは、21 世紀の生産性と繁栄の原動力となるデジタル経済と知識経済への移行を加速させました。

現在、人的資本のあらゆる側面に投資することは、すべての加盟国にとって優先事項です。健康、教育、社会的セーフティネット、公平性と技術へのアクセスを促進する改革など、あらゆる側面です。

ここでも、政策当局者は大きな課題に直面します。ここでも、IMF は取り組みを強化しています。

私たちはすでに、男女格差や紛争に関する新しい戦略を業務に取り入れています。フィンテックの分野では、電子決済と中央銀行デジタル通貨を活かすための取り組みを並行して進めています。

これらの予見的・予防的な対策は、リターンが膨大なものになるでしょう。教育を受けていて健康的で、つながりのある人々は、新しい産業に適応し、繁栄するだけでなく、気候危機によるショックなどにもよりよく対応することができます。

そこで、**耐性のある地球の重要性**に話を移します。

気候変動は、食料安全保障を損ない、サプライチェーンを混乱させ、重要なインフラを危険にさらすなど、現在の課題をすでに悪化させています。

IMF の調査によると、グリーン経済への移行を今、正しく行えば、それに伴うコストは管理可能な範囲に収まります。遅れば、より大きなコストが発生し、マクロ金融の安定、そして人々の福祉に対し、大きな打撃となります。

ここでも IMF は取り組みを強化しています。緩和・適応・移行のための政策を支援し、融資と非融資を合わせたすべてのツールを展開しています。この重要な分野で、強靭性・持続可能性トラスト（RST）が運営を開始したことを、誇りを持って発表させていただきます。バルバドス、コスタリカ、ルワンダとはすでに、職員レベルの合意に達しており、他にもたくさんの要請があります。

加盟国の寛大さのおかげで、**400 億ドル**を超える誓約を、確固たる拠出金にする取り組みにおいて、確実に進歩を遂げています。この新しい制度に対する需要が高いことを踏まえると、より強力な経済国に対しさらに多くの行動を求めたいと思います。

まとめさせていただきます。

IMF は設立以来、変化する世界に常に適応してきました。

重要な分岐点に来る度に、前任者たちは先を見据えてこう自問しました。「私たちは、今住んでいる世界に必要な適切なツールとリソースを備えているだろうか」。

今もまた分岐点に立っており、私たちは同じことを自問しなければなりません。正しい答えを見つけることは、IMF が十分な資金と目的に見合った支援策を備えて加盟国を支えられるように**すべての選択肢を模索**することを意味します。

ここで、IMF の最大の資産である、たゆまぬ努力を続ける**強靱な職員**を称えたいと思います。また、**理事会と全加盟国の継続的なご支援**に対し、**感謝の気持ち**を申し上げます。

皆さんは、分断化の力が私たちを引き離そうとする中でも、ブレトンウッズ機構が私たちを結びつけ続けていることを示しました。私たち全員にとって重要な問題に **190 か国が協力**して取り組んでいます。毎日、協働しています。

皆様の継続的な支援と連携に期待しています。すべての人のためになる耐性ある世界を、そして**将来に向けた IMF**を構築すべく、ケインズ氏の精神を大切にしましょう。

ご清聴ありがとうございました。

##